

## 令和6年度 嘉瀬川・六角川・松浦川学識者懇談会

まつ うら

# 松浦川総合水系 環境整備事業



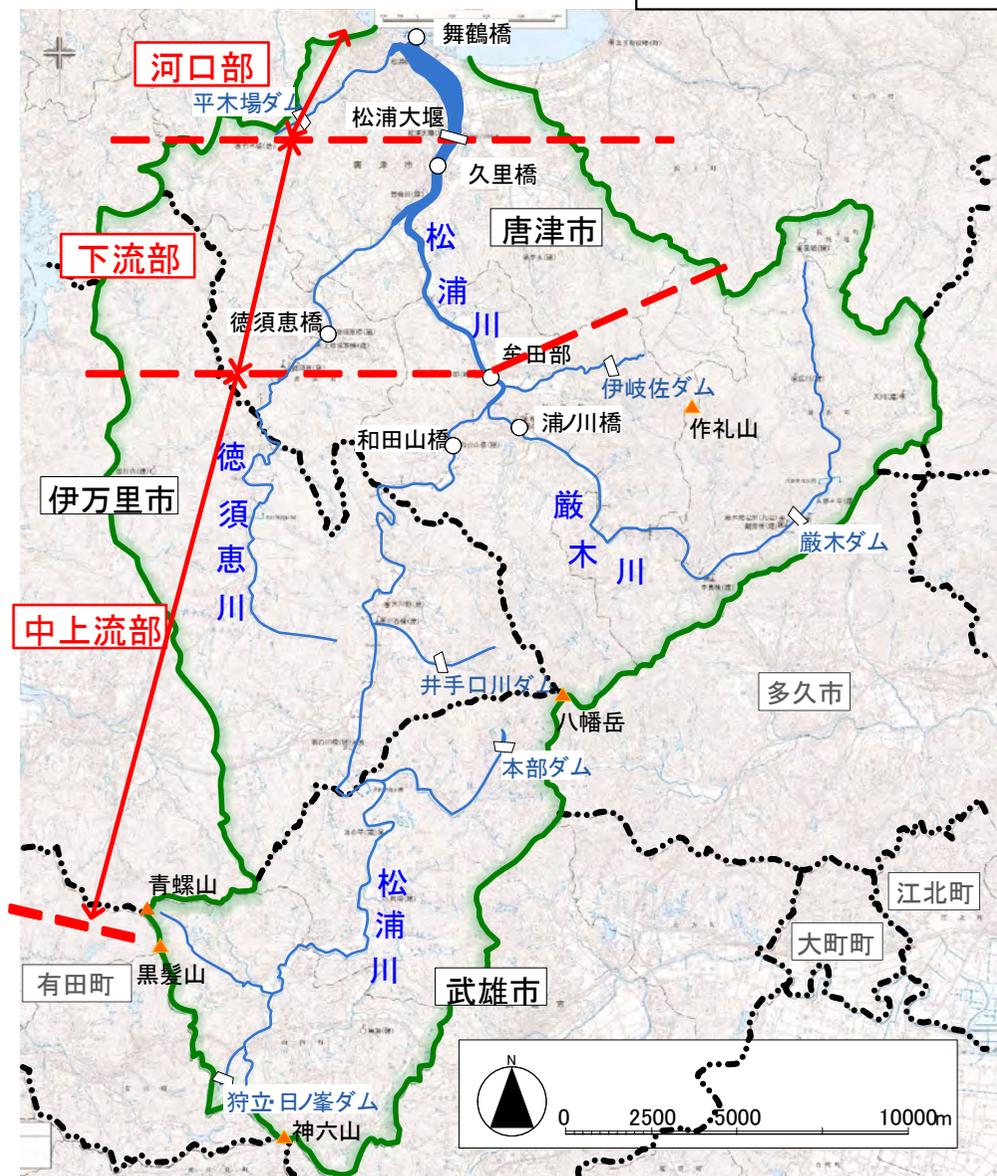
- ① 事業採択後3年経過して未着工の事業
- ② 事業採択後5年経過して継続中の事業
- ③ 着工準備費又は実施計画調査費の予算化後3年経過した事業
- ④ 再評価実施後5年経過した事業
- ⑤ 社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業

# 1. 事業の必要性

## ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

### 流域の概要

松浦川流域概要図



- ◆松浦川はその源を佐賀県武雄市山内町青螺山(標高599m)に発し、鳥海川等の支川を合わせながら北流し、唐津市相知町で厳木川を合わせ、下流平野部に出て徳須恵川を合わせ、その後は唐津市中心市街部を貫流し、玄界灘に注ぐ一級河川である。
- ◆東部は、森林地域でありその裾野は田園地帯が広がっている。西部は、丘陵地帯を形成し稲作、畑作、畜産が盛んである。北部は唐津市の中心市街地帯となっており、主に宅地、商業地として利用されている。国道202号、203号、JR唐津線・筑肥線、西九州自動車道などによる交通アクセスにも恵まれていることなどから、交通ネットワークの形成により都市間相互の連携が強化され、人や物資等の交流促進が進んでいる。
- ◆近年、唐津市において松浦川を考慮した都市計画マスタープランが策定されるなど、松浦川と深い関わりを持ったまちづくりが進められている。

#### 【松浦川の概要】

- ・流域面積: 446km<sup>2</sup>
- ・幹川流路延長: 47km
- ・国管理区間: 63.3km(支川を含む)
- ・流域内人口: 約9万人
- ・流域内市町村: 唐津市、伊万里市、武雄市

# 1. 事業の必要性

## ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

### (1) 地域開発の状況

#### 【松浦川水系流域治水プロジェクト2.0】

・気候変動の影響により当面の目標としている治水安全度が目減りすることを踏まえ、流域治水の取組を加速化・深化させる。このために必要な取組を反映し、『流域治水プロジェクト2.0』として令和6年3月に更新。

#### 【松浦川水系流域治水プロジェクト(グリーンインフラ)】

・スナヤツメ南方種やオヤニラミ等を保全するため、今後概ね20年間で瀬・淵やワンド・たまり等といった生息環境を保全・創出するなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進する。

#### ●グリーンインフラの取組『松浦川水系に息づく希少魚類の生息環境の保全・創出』



- 治水対策における多自然川づくり  
・瀬、淵、ワンド、たまり等の水辺環境の保全・創出
- 魅力ある水辺空間・賑わい創出  
・河口部地区かわまちづくり  
・中島地区かわまちづくり
- 自然環境が有する多様な機能活用の取組み  
・小中学校などによる河川環境学習



- 凡例
- 浸水範囲 (浸水深50cm以上)
  - 大臣管理区間
  - 国有林
  - 森林整備センター管理地
  - 官行造林地
  - 改修メニュー
  - グリーンメニュー

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合があります。

- #### 【全域に係る取組】
- ・瀬、淵を有する流れや水際環境、上下流の縦断的な生物の生息、生育環境の保全、動植物の多様性の確保
  - ・歴史的構造物の保全
  - ・水辺空間を利用したスポーツ、レジャー利用、自然とのふれあいや環境学習の場の整備、保全
  - ・河川を通じた地域間交流等を推進、川と自然とふれあえる親しみやすい河川空間の維持、整備
  - ・地域のニーズを踏まえた賑わいのある水辺空間創出への連携支援
  - ・多様な生態系の保全

# 1. 事業の必要性

## ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

### (1) 地域開発の状況

◆佐賀県と福岡県を結ぶ西九州自動車道、唐津市と佐賀市を結ぶ佐賀唐津道路の整備が進んでおり、周辺地域からのアクセス性が向上し、より一層交流人口の拡大が期待されている。



地域開発の状況



佐賀唐津道路



西九州自動車道

# 1. 事業の必要性

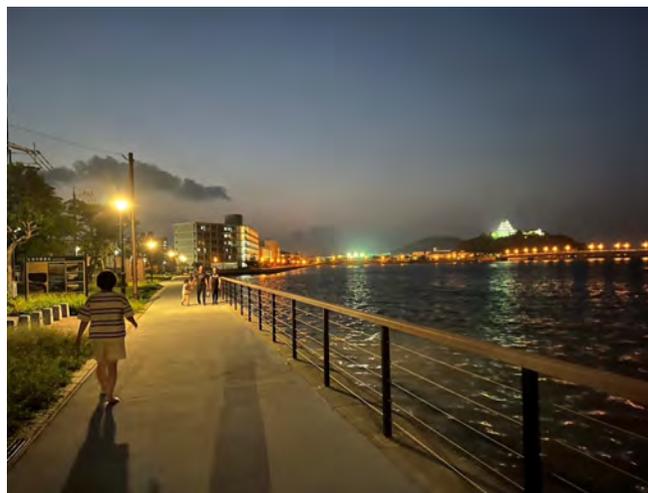
## ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

### (2)地域の協力体制(継続箇所:河口部地区)【R6年度完了】

- ◆ 平成26年11月に「松浦川河口部水辺整備検討会」を設立し、整備内容、利活用方策、維持管理の多方面から検討を行い、平成27年3月に「河口部地区かわまちづくり計画」として登録されている。
- ◆ 河口部地区では、唐津市の協力のもと、整備箇所周辺の除草等の維持管理が行われ、地域住民の散策等に利用されている。



検討会開催状況



利用状況



除草の実施

# 1. 事業の必要性

## ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

### (2) 地域の協力体制(新規箇所:中島地区)

- ◆ 令和5年11月に地元関係者、唐津市、国土交通省で構成された「**巖木川中島地区かわまちづくり協議会**」を設立し、ワークショップでの議論を進めながら整備内容、利活用方策、維持管理の多方面から検討・協議を行い、**令和6年8月に「巖木川中島地区かわまちづくり計画」として登録**されている。
- ◆ 中島地区では、**地域住民による除草等の維持管理が行われ、地域住民主催のイベントや地域の小学生が参加する環境学習会などに活用**されている。



協議会の開催状況



ワークショップの開催状況



登録証伝達式



地域住民主催のイベント (川リンピック)



環境学習会



地域住民による維持管理 (水草除去の実施)

# 1. 事業の必要性

## ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

### (3) 関連事業との整合

#### ＜河川環境の整備と保全に関する目標＞(松浦川水系河川整備計画抜粋)

- ◆ 多様な動植物が生息・生育する豊かな自然環境を次世代に引き継ぐよう、瀬・淵を有する流れや水際環境、上下流の縦断的な生物の生息・生育環境を保全し、松浦川における動植物の多様性を確保する。
- ◆ 河川空間の利用に関しては、流域の人々の生活の基盤や歴史、風土を形成してきた松浦川の恵みを生かしつつ、水辺空間を利用したスポーツ・レジャー利用、自然とのふれあいや環境学習の場の整備・保全を目指す。
- ◆ 河川を通じた地域間交流等を推進し、川と自然とふれあえる親しみやすい河川空間の維持・整備を目指す。
- ◆ 良好な景観の維持・形成については、松浦川の流れが織りなす良好な河川景観の保全を図るとともに、中上流部は田園風景と調和した河川景観、河口部は歴史・文化との関わりが深い唐津城と調和した河川景観の保全に努める。

# 1. 事業の必要性

## ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

### (3) 関連事業との整合

#### 【唐津市都市計画マスタープラン（H22.12策定、令和6年度改定中）】

- 唐津市の都市計画マスタープランは、令和6年度改定に向けて唐津市都市計画マスタープラン等策定委員会等にて議論を進めており、マスタープランの地域別構想案（重点方針）を以下の通り掲げ、策定を進めている。

#### 河口部地区（中央地域）

- 松浦川を軸とした景観や環境に配慮した公共空間づくりを取組方針に掲げ、水辺の回廊整備を主な取組みとしている。

#### 厳木川中島地区（南部地域）

- 自然環境や景観に配慮した公共空間づくりを取組方針に掲げ、松浦川、厳木川のかわまちづくりを主な取組みとしている。

### 中央地域

#### 4. まちづくりの重点方針

8

##### 重点方針3 地域固有の自然環境や景観に 配慮した土地利用の調整

| 取組方針   | 主な取組み  |
|--|--|
| ① 虹の松原、鏡山、唐津城などの景観拠点の保全・活用と、景観計画との連携による国道周辺の景観形成 | ● 自然公園法等の適切な運用による自然環境・景観の保全および観光・交流資源としての活用                        |
| ② 松浦川を軸とした景観や環境に配慮した公共空間づくり                      | ● 水辺の回廊の整備   |
| ③ 多様な主体の連携・協働による自然環境の保全や景観形成                     | ● 景観まちづくり専門家会議や景観まちづくり推進委員制度を活用した景観づくり<br>● 景観計画や景観重要公共施設ガイドラインの運用 |

##### 重点方針4 地域における生活の質の向上 による地域生活拠点の維持・再生

|                               |   |
|-------------------------------|---|
| ① 地域生活拠点を中心とした生活利便機能の維持・向上    | ● 地域生活拠点への生活利便機能の維持・集約<br>● 離島における生活利便機能の維持<br>● 離島航路の維持<br>● 公共交通の利用促進および次世代モビリティの導入<br>● 公園の維持管理および適正配置の検討  |
| ② 自然災害対策をはじめとする暮らしの安全性の確保     | ● 立地適正化計画に基づく居住誘導区域への居住の誘導および防災指針の運用<br>● 流域治水プロジェクトの推進による流域の安全性確保<br>● 防犯灯の設置等による防犯まちづくりの推進<br>● 所有者等による空き家等の適切な管理の促進<br>● 自主防災組織の設置促進と地域コミュニティの維持 |
| ③ 移住者を含め、多様な暮らしのニーズに対応した環境づくり | ● シェアオフィスやコワーキングスペースの整備等による多様な働き方・暮らしの実現  |

### 南部地域

#### 4. まちづくりの重点方針

18

##### 重点方針1 多様な機能を有する森林環境 の保全と、レクリエーション空間 としての活用

| 取組方針                               | 主な取組み  |
|------------------------------------|--|
| ① 多面的機能を持続的に発揮させる多様な森づくりの推進        | ● 林道の整備・維持管理<br>● 市民団体による広葉樹の植栽等<br>● 森林組合等の担い手の交錯<br>● 森林環境課と校舎を活用した間伐や森林作業道の整備促進 |
| ② 森林資源を活用した新たな雇用の場としての仕組みづくり       | ● バイオマスエネルギーの研究  |
| ③ キャンプ場などのレクリエーションや環境学習の場としての活用の推進 | ● 八幡岳キャンプ場の管理運営  |

##### 重点方針2 豊かな自然や景観に配慮した 空間づくりと、観光・交流資源 の連携・活用による地域振興

|   |   |
|---|---|
| ① 自然環境や景観に配慮した公共空間づくり                     | ● 松浦川、厳木川のかわまちづくり                       |
| ② 市民団体による環境・体験学習の場となる水辺空間づくり              | ● NPO法人アサメ会による小学校の自然学習<br>● 出陣いの水辺の維持管理 |
| ③ 自然や歴史・文化など多彩な観光・交流資源の保全・活用による都市・農村交流の促進 | ● 歴史・文化の継承による地産づくり                      |
| ④ 道の駅を活用した観光情報発信等による観光交流と地域振興の促進          | ● 風のふるさと館を活用した地元の生産者等との連携による農産物販売       |
| ⑤ 農林業+αによる地域活性化施策の展開                      | ● 厳野の畑田におけるふれあい交流事業<br>● 担い手（後継者）の確保・育成 |

##### 重点方針3 高速交通体系を活かした産業 の振興

|                              |                    |
|------------------------------|--------------------|
| ① 産業・観光振興につながる佐賀唐津道路の早期整備の促進 | ● 佐賀唐津道路の早期整備      |
| ② 新産業集積エリア唐津への企業誘致の推進        | ● 新産業集積エリア唐津への企業誘致 |

##### 重点方針4 地域における生活の質の向上 による地域生活拠点の維持・再生

|                            |  |
|----------------------------|--|
| ① 地域生活拠点を中心とした生活利便機能の維持・向上 | ● 地域生活拠点への生活利便機能の維持・集約<br>● 公共交通の利用促進および次世代モビリティの導入<br>● 公園の維持管理および適正配置の検討   |
| ② 自然災害対策をはじめとする暮らしの安全性の確保  | ● 居住における安全性の確保（災害リスクの高い区域からの移転促進、災害に強いインフラ整備など）<br>● 防犯灯の設置等による防犯まちづくりの推進<br>● 所有者等による空き家等の適切な管理の促進<br>● 自主防災組織の設置促進 |

# 1. 事業の必要性

## ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

### (4)河川環境等を取りまく状況

#### <中上流部（源流から松浦大堰湛水区間上流端まで）>

- ・上流部(源流付近～国管理区間上流端)は、松浦川、徳須恵川、厳木川のいずれも、蛇行に富み、瀬・淵が連続する。
- ・中流部(国管理区間上流端～松浦大堰湛水区間上流端)は、**桃川親水公園**では夏祭り等のイベントに利用されている。**駒鳴地区**では、**かわまちづくり**の整備が行われ、地域の方々の取り組みにより、**カヌー体験や川遊びなどのイベント**に利用されている。16km地点の**アザメの瀬**は**自然再生事業**として整備され、**フナなどの魚類の産卵が確認**されているとともに、**子ども達の環境学習の場**として活用されている。



駒鳴地区(カヌー体験)



アザメの瀬(夏休み環境教室)

#### <下流部・河口部（松浦大堰下流から河口まで）>

- ・**流域最大の人口を有する唐津市街地**を緩やかに流下し、**広い河川空間は緑地公園や運動公園、サイクリングロードなどに日常的に利用**されている。**九州花火大会**が行われ、**毎年多くの市民・観光客が訪れる観光地**となっている。
- ・湛水区間の河岸にはメダケやオオタチヤナギが繁茂し、**カモメ類やカワウが休憩地**として利用している。
- ・**広大な砂質干潟が形成**され、**ハクセンシオマネキやウミナナ等の貴重な生物の生息・生育・繁殖場**となっている。



砂質干潟



ハクセンシオマネキ

#### <支川（厳木川、徳須恵川）>

- ・**厳木川**は、瀬・淵で形成された砂礫河原の豊かな河川環境を呈しており、**ゲンジボタルやオヤニラミ等が確認**される。また、**アリアケギバチ**や**スナヤツメ南方種**などが生息する・生育する早瀬・淵が存在する。
- ・**徳須恵川**はオオタチヤナギ群落がササゴイの繁殖地として利用されている。堤防のジョギングや散策、**夏祭り等のイベント**に利用されている。



アリアケギバチ



徳須恵川(花火大会)

# 1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

## (5) 河川の利用状況

### 【河口部】

- ◆観光都市唐津の中心部を貫流し、広大な水面は唐津城とあいまって唐津を代表する景勝空間となっており地域住民の散策などに利用されている。また、玄海国定公園・日本三大松原の一つである虹の松原が近接し、多くの観光客が訪れている。



鏡山から展望する虹の松原と河口部



河口部の利用状況

### 【巖木川】

- ◆巖木川は、地域団体による町切水車の保存と合わせた活動が行われているとともに、川遊びや川流れ体験などに利用されている。
- ◆また、地域の小学生による魚取りなどの環境学習活動や地域住民によるホタルの観賞など川や自然ふれあう場として利用されている。



町切水車



魚取り・川流れ体験



魚取り・川流れ体験



環境学習(魚の解説)

# 1. 事業の必要性 ②事業の投資効果

## (1) 費用対効果分析(水系全体)

| 項目    |       | 前回評価時<br>(令和4年度)  | 今回評価時<br>(令和6年度)                                     | 変更理由  |
|-------|-------|---|--|---|
| 総事業費  |       | 約17億円<br>【自然再生】<br>・アザメの瀬 : 約8.0億円<br>【水辺整備】<br>・和多田地区 : 約0.27億円<br>・中山地区 : 約0.94億円<br>・桃川地区 : 約0.50億円<br>・駒鳴地区 : 約1.2億円<br>・河口部地区 : 約6.0億円 | 約11億円<br>【水辺整備】<br>・河口部地区 : 約5.4億円<br>・中島地区 : 約6.0億円 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・水辺整備事業(中島地区)の新規追加</li> <li>・完了評価済み整備事業の事業計画からの除外による事業費の削減及び便益の変更</li> <li>・基準年の変更</li> <li>・集計世帯数を各自治体の最新公表データへ更新。これによる便益の変更</li> </ul> |
| 事業完了年 |       | 令和6年度   | 令和16年度   |   |
| 全事業   | B/C   | 2.4   | 5.8  |   |
|       | B(便益) | 約82億円   | 約83億円  |   |
|       | C(費用) | 約34億円   | 約14億円  |   |

※ B/Cの算出は、便益を費用で除算することにより算出する。便益はアンケート調査によって求めた年支払い意思額と便益が及ぶ世帯数を積算し、これを社会的割引率を考慮し完成後50年分を足し合わせるにより算出する。費用は社会的割引率等を考慮した事業費と完成後50年分の維持管理費を足し合わせるにより算出する。

# 1. 事業の必要性 ②事業の投資効果

## <費用対効果等>

|       | 事業費    | 主な整備内容                 | 便益(B)   | 費用(C)                                       | B/C                                       |
|-------|--------|------------------------|---|---|---|
| 全事業   | 11.4億円 | —                      | 83億円<br>※社会的割引率<br>1%の場合:188億円<br>2%の場合:140億円 | 14億円<br>※社会的割引率<br>1%の場合:18億円<br>2%の場合:16億円 | 5.8<br>※社会的割引率<br>1%の場合:10.7<br>2%の場合:8.7 |
| 継続事業  | 5.4億円  | —                      | 24億円  | 8億円   | 3.1                                       |
| 水辺整備  | 5.4億円  | —                      | 24億円  | 8億円   | 3.1                                       |
| 河口部地区 | 5.4億円  | 管理用通路、護岸、モニタリング調査等     | 24億円  | 8億円   | 3.1                                       |
| 新規事業  | 6.0億円  | —                      | 59億円  | 7億円   | 9.0                                       |
| 水辺整備  | 6.0億円  | —                      | 59億円  | 7億円   | 9.0                                       |
| 中島地区  | 6.0億円  | 河道整正、通路工、水制工、モニタリング調査等 | 59億円  | 7億円   | 9.0                                       |
| 残事業   | 6.0億円  | —                      | 59億円  | 7億円   | 9.0                                       |

|       | アンケート実施時期 | アンケート配布数 | 有効回答数 | 集計範囲     | 集計対象世帯数 | 支払い意思額(円/月・世帯) |
|-------|-----------|----------|-------|----------|---------|----------------|
| 河口部地区 | 平成25年度    | 1,000    | 211   | 半径10km圏内 | 34,042  | 275            |
| 中島地区  | 令和6年度     | Web      | 332   | 半径15km圏内 | 57,229  | 590            |

## 《効果名》

## 【効果の概要】

### ①便益の算出：約83億円

(良好な景観の形成、人と自然の豊かな触れ合い活動の場の確保、河川空間利用の増進等)

②地域のにぎわいの創出 : 九州花火大会の観覧や地域住民の散策等に活用  
テラス広場を地域でのイベント等での活用

P 4、5、8、9、16、20

③治水安全性の向上 : 管理用通路の整備による河川巡視や河川管理の円滑化・効率化

P 15、18、19

④良好な自然環境の保全 : 地域が主体となった除草・清掃活動  
巖木川の豊かな自然環境を活用したイベント

P 4、5、9、20

### ⑤費用対効果分析 (算定に用いた効果①)

全体事業 (B/C) : 5.8

残事業 (B/C) : 9.0

# 1. 事業の必要性

## ③事業の進捗状況

### (1) 事業採択年・工事着手年



| 区分            | 箇所名                    | 事業期間  | 備考   |
|---------------|------------------------|---|------|
| 水辺整備          | かこうぶ<br>河口部地区          | 平成27年度～令和6年度<br>(工事着手年度 平成29年度)<br>(工事完了年度 令和元年度) | 継続箇所 |
|               | きゅうらぎがわなかしま<br>巖木川中島地区 | 令和7年度～令和16年度                                      | 新規箇所 |
| 松浦川総合水系環境整備事業 |                        | 平成27年度～令和16年度                                     |      |

※ 事業計画見直しのため、完了箇所評価済み事業（自然再生（アザメの瀬地区）、水辺整備（和多田地区、中山地区、桃川地区、駒鳴地区））を評価対象から削除

| 凡例 |            |
|----|------------|
|    | 流域界        |
|    | 河川         |
|    | 市町村界       |
|    | 完了箇所(報告済み) |
|    | 継続箇所       |
|    | 新規         |
|    | 国管理区間      |

# 1. 事業の必要性

## ③事業の進捗状況

### (2)事業の進捗状況(継続箇所:河口部地区)【R6年度完了】

#### 1)事業の必要性

- ◆ 唐津市は、ふるさとのシンボルである唐津城や虹ノ松原などの独特の景観を活かした水辺のまちづくりとして、河口部周辺の“水辺の回廊”を整備することとしているが、川沿いに家屋が建ち並び、水辺に近づきにくく、河川利用時の利便性や安全性が十分に確保されていない状況であることから、整備の推進が必要となっていた。

#### 【事業計画範囲】



#### 【整備前の状況】



川沿いに家屋が建ち並び、水辺に近づきにくい。



管理用の通路もなく、水辺に近づきにくい。

# 1. 事業の必要性

## ③事業の進捗状況

### 2) 事業の目的・内容

- ◆ 河口部地区において護岸及び管理用通路の整備により治水及び河川利用の安全性の向上を図ることで、水辺の回遊ゾーンを創出し、「人と川とのふれあいの場所」として利活用の推進を図る。

#### 【整備内容】



#### 【概要】

|        |                     |
|--------|---------------------|
| 位置     | 松浦川 1.0k付近          |
| 事業区分   | 水辺整備                |
| 主な整備内容 | 管理用通路、護岸工、モニタリング調査等 |
| 事業費    | 約5.4億円              |
| 整備完了年  | 令和元年度               |
| 事業期間   | 平成27年度～令和6年度        |

#### 【工程表】

| 項目        | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|-----------|-----|-----|-----|-----|----|----|----|----|----|----|
| 管理用通路     |     |     | ■   | ■   | ■  |    |    |    |    |    |
| 護岸工       |     |     | ■   | ■   | ■  |    |    |    |    |    |
| 測量設計等     | ■   | ■   | ■   |     |    |    |    |    |    |    |
| モニタリング調査等 |     |     |     |     |    | ■  | ■  | ■  | ■  | ■  |

# 1. 事業の必要性

## ③事業の進捗状況

### 3) 事業の現状

- ◆ 河口部地区では、整備完了後は主に散策にて約100~300人/日の方に利用されている。

【利用状況】



利用形態別利用者数(R5年度 日利用者数)

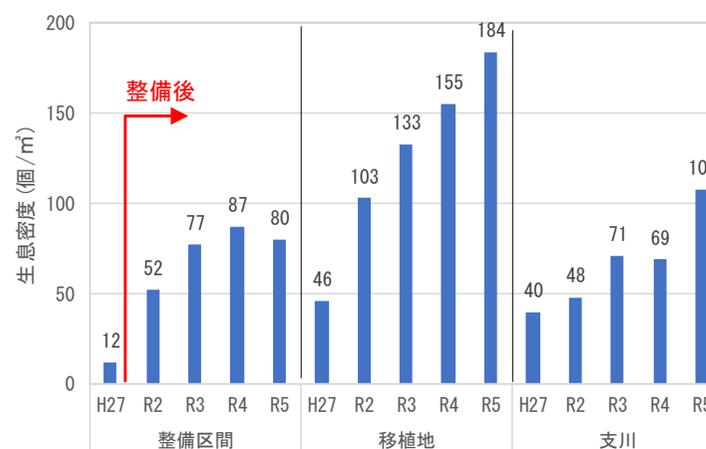
| 調査日   | 散策等 | 水遊び | 計   |
|-------|-----|-----|-----|
| 4/30  | 252 | 2   | 254 |
| 5/3   | 184 | 10  | 194 |
| 5/15  | 116 | 0   | 116 |
| 7/30  | 120 | 0   | 120 |
| 7/31  | 111 | 0   | 111 |
| 11/12 | 120 | 0   | 120 |
| 1/8   | 121 | 0   | 121 |

#### ◆ ハクセンシオマネキ

- ・整備区間にハクセンシオマネキの生息が確認されたため、環境保全措置の一環として、工事着手前の移植を実施。
- ・工事完了後、令和2年度からハクセンシオマネキの生息状況を把握する調査を実施している。



調査箇所



モニタリング結果



ハクセンシオマネキ

- ・整備箇所及び移植した本川において継続して生息が確認され、また、生息密度は整備前より増加傾向であることも確認。

# 1. 事業の必要性

## ③事業の進捗状況

### (2) 事業の進捗状況(新規箇所: 中島地区)

#### 1) 事業の必要性

- ◆ 厳木川の中島地区は、瀬・淵で形成された砂礫河原の良好な河川環境を呈しており、ゲンジボタルが飛翔し、地域の川遊び、イベント及び環境学習の場として活用され、地域住民による除草等の自主的な維持管理が実施されているが、水際の落差によって水辺に近づきにくい等の課題を有している。
- ◆ 一方で、地区周辺では、道の駅、認定こども園や小中学校などが点在し、「かわ」と「まち」を繋いだ地域の活性化が期待されている

#### 【事業計画範囲】



#### 【現地の状況】



# 1. 事業の必要性

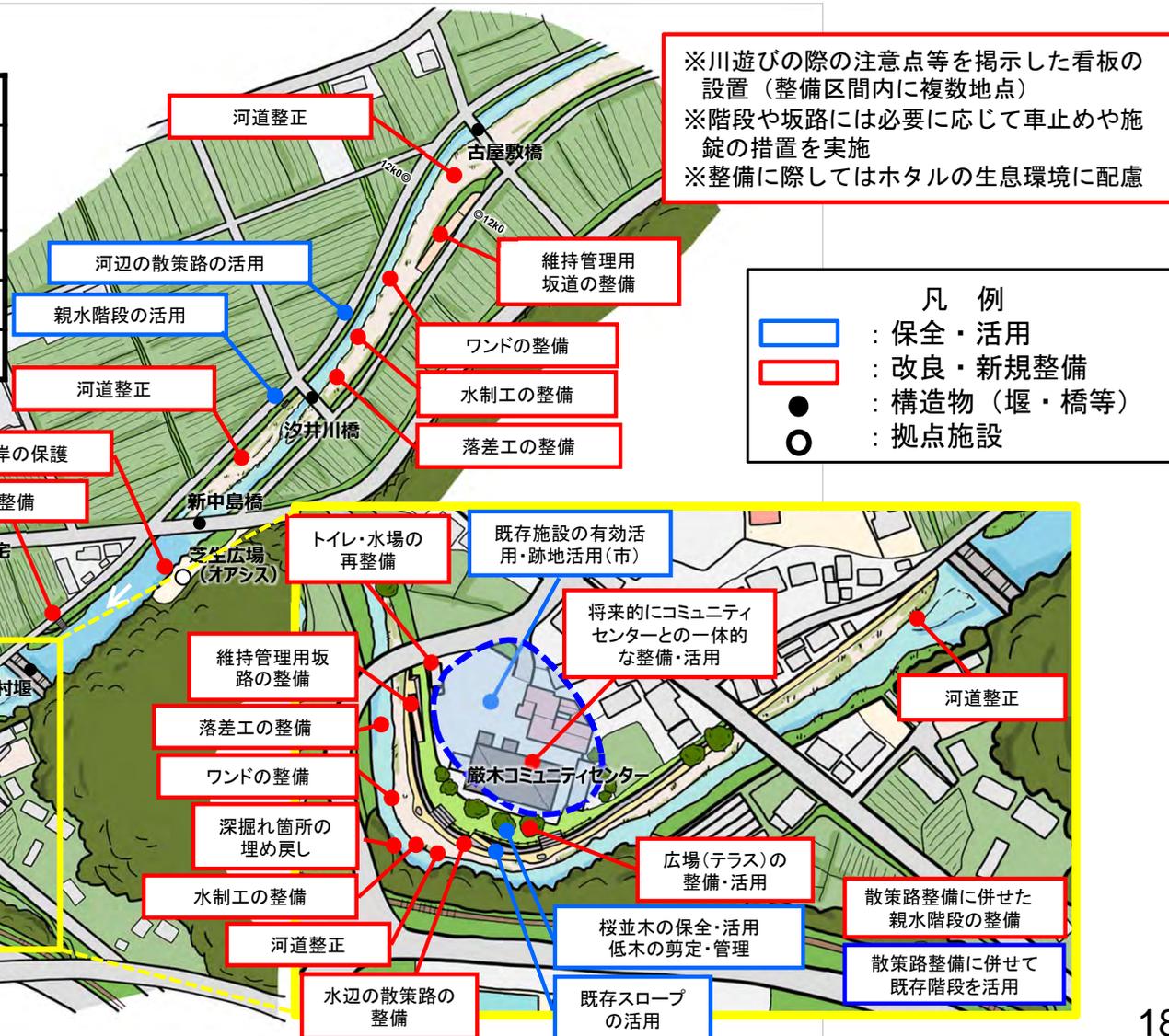
## ③事業の進捗状況

### 2) 事業の目的・内容

- ◆ 未来を担う子ども達や地域住民が、「安全」に「安心」して「楽しく」水辺とふれあえる場の整備を行い、「川遊び」、「環境学習」、「地域住民による美化活動・イベント」等を通して利活用が活発になり、厳木川を中心として「かわ」と「まち」がかつての賑わいを取り戻し、将来に渡ってさまざまな取り組みが続いていくことで、「かわ」と「まち」が繋がった地域の活性化を進めていく。

#### 【概要】

|        |                      |
|--------|----------------------|
| 位置     | 厳木川 11.0k~12.2付近     |
| 事業区分   | 水辺整備                 |
| 主な整備内容 | 河道整正、通路工、水制工、モニタリング等 |
| 事業費    | 約6.0億円               |
| 整備完了年  | 令和11年度(予定)           |
| 事業期間   | 令和7年度~令和16年度(予定)     |



整備イメージ(案)平面図

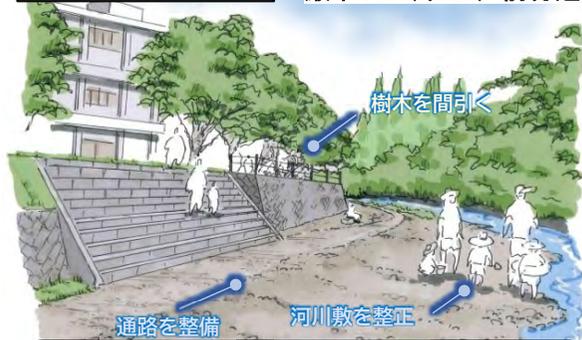
# 1. 事業の必要性

## ③事業の進捗状況

### 2) 事業の目的・内容

整備イメージ (案)

巖木コミュニティセンター前付近



河道整理、通路整備、広場の整備等により、水辺へのアクセスを向上させるとともに、イベント等に活用しやすくする

整備イメージ (案)

古屋敷橋付近



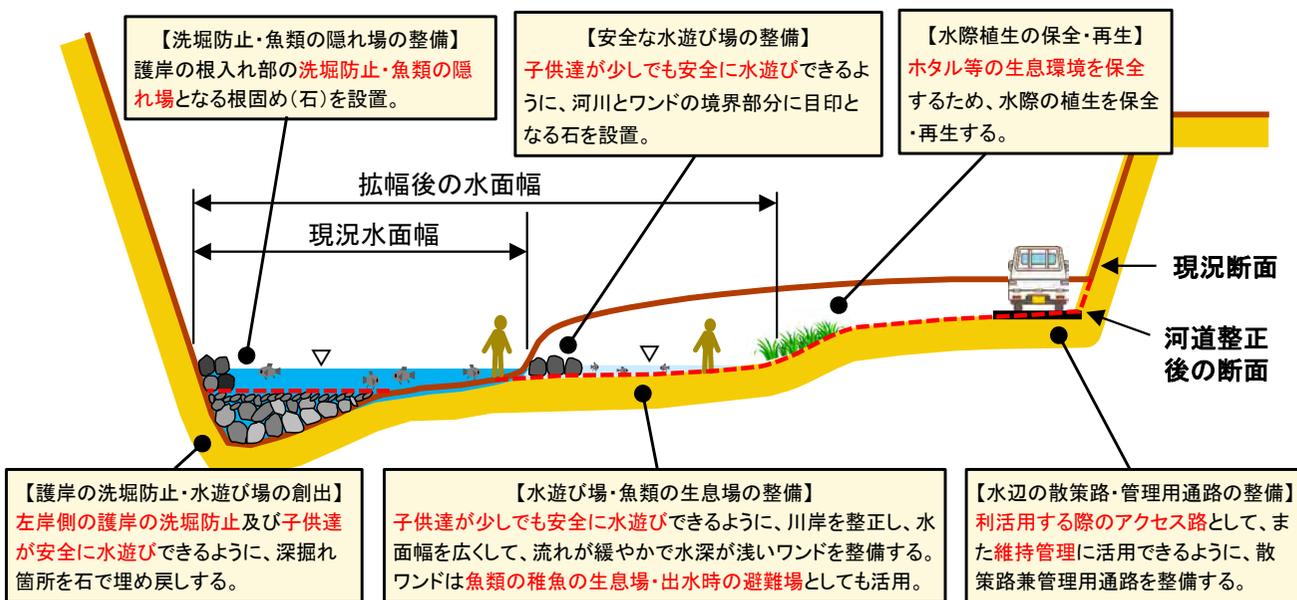
河道整理や進入路の整備等により、地域で実施されているイベントや維持管理時のアクセス性の向上を図る

【工程表】

| 項目      | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 | R12 | R13 | R14 | R15 | R16 |
|---------|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 測量設計検討等 | ■  |    |    |     |     |     |     |     |     |     |
| 河道整理    |    | ■  |    |     |     |     |     |     |     |     |
| 通路工     |    | ■  |    |     |     |     |     |     |     |     |
| 水制工     |    | ■  |    |     |     |     |     |     |     |     |
| モニタリング等 |    |    |    |     |     | ■   |     |     |     |     |

※詳細な工程は、今後、設計等を進めていながら決定していく。

#### ■整備イメージ (案) 横断図 (コミュニティセンター前付近)



# 1. 事業の必要性

## ③事業の進捗状況

### 3) 事業の現状

- ◆ 厳木川中島地区では、令和5年11月に地元関係者、唐津市、国土交通省で構成された「厳木川中島地区かわまちづくり協議会」を設立し、ワークショップでの議論を進めながら整備内容、利活用方策、維持管理の多方面から検討・協議を行い、事業の進捗に向けた取組を推進している。
- ◆ 地域住民による除草、ヨシ刈り、水草撤去等の維持管理が自主的に行われ、地域住民主催のイベントや地域の小学生が参加する環境学習会等が開催されている。



協議会の開催状況



環境学習会



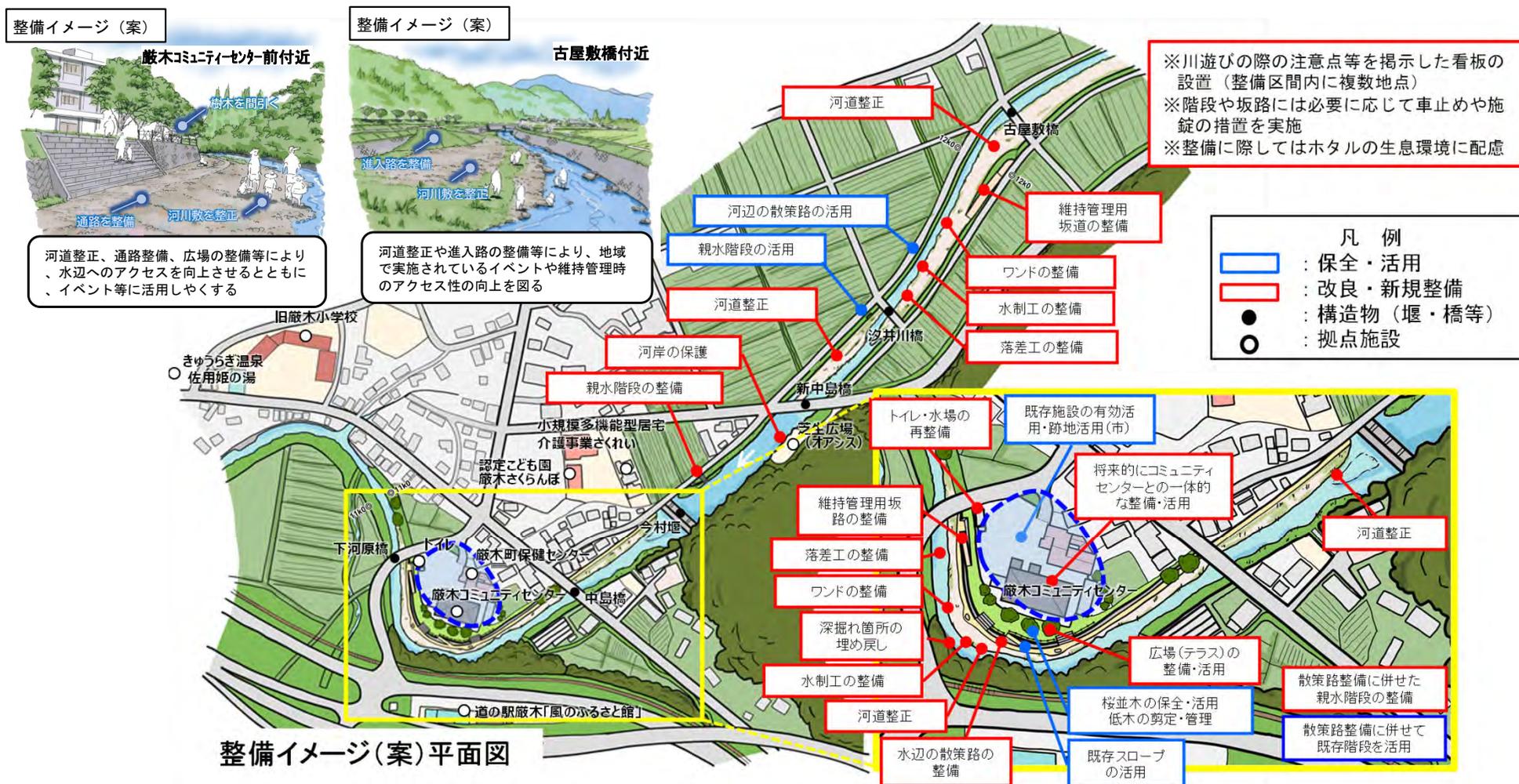
地域住民による維持管理（水草除去の実施）

# 2. 事業の進捗の見込み

## (1) 事業費の変更内容(新規箇所: 巖木川中島地区(水辺整備))

巖木川中島地区かわまちづくり計画の登録 直接工事費 3.4 億円

- 「巖木川中島地区かわまちづくり」は、令和6年8月に「かわまちづくり」制度に計画が登録された。
- 本計画は、未来を担うこども達や地域住民が巖木川を中心として、憩いと賑わいの場を創出し地域の活性化を進めていくものである。



## 2. 事業の進捗の見込み

### (2) 事業の実施状況

◆事業名：松浦川総合水系環境整備事業

◆計画（整備内容）：

〈水辺整備（河口部地区、中島地区）〉

・護岸工、管理用通路、河道整正、水制工、測量設計検討、モニタリング調査等

◆総事業費：約11.4億円（河口部地区5.4億円、中島地区6.0億円）

◆整備期間：平成27年度から令和16年度

◆事業進捗率：約48%

◆残事業費：約6.0億円（残事業：管理用通路、河道整正、水制工、測量設計検討、モニタリング調査等）

◆事業の進捗状況：

・河口部地区は、令和元年度に国による管理用通路・護岸整備が完了し、令和2年度に唐津市による緑地整備が完了して、令和3年度から供用開始している。

令和6年度までモニタリングを実施予定である。

・中島地区は、令和7年度に事業に着手を目指し、協議会等を開催し、令和6年度に「かわまちづくり計画」に登録したところである。

## 2. 事業の進捗の見込み

### (3) 今後の事業展開

- ◆水辺整備事業の河口部地区では、地元自治体や地域住民等と協力して事業を進め、平成27年度に事業に着手し、令和元年度に整備完了、令和2年度以降はモニタリング調査等を実施し、令和6年度に完了予定である。
- ◆中島地区では、令和7年度に事業に着手し、令和11年度に整備完了、令和12年度以降はモニタリング調査等を実施し、令和16年度に完了予定である。

### (4) 今後の事業の進捗の見込み

- ◆河口部地区では、地域住民の散策等に利用され、唐津市の協力のもと、整備箇所周辺の除草等の維持管理が行われおり、地域住民による活発な利活用と維持管理が見込まれる。
- ◆中島地区では、令和5年度に『巖木川中島地区かわまちづくり協議会』を設立し、協議会で決定した基本方針に基づき、下部組織である『ワーキンググループ』で整備内容や利活用・維持管理計画等について活発な議論を行い、地域の協力体制が確立されており、今後も順調な事業進捗が見込まれる。

# 3. コスト縮減や代替案立案等の可能性

## (1) 代替案の可能性の検討

- ◆ 河口部地区の整備内容については、「松浦川河口部水辺整備検討会」で議論を重ね、河川管理面、河川利用面等を考慮した上での適切な整備内容となっており、現計画が最適と考えている。
- ◆ 中島地区の整備内容については、「巖木川中島地区かわまちづくり協議会」及び「巖木川中島地区かわまちづくり協議会ワーキンググループ」で議論を重ね、河川管理面、河川利用面等を考慮した上での適切な整備内容となっており、現計画が最適と考えている。

## (2) コスト縮減の方策

- ◆ 引き続き、地元自治体及び地域住民の協力のもと、整備箇所周辺の除草・清掃活動等に取り組む。
- ◆ また、河道整正の工事により発生する玉石等については、深掘れ箇所の埋め戻しに流用を行う。
- ◆ さらに、今後も近年の技術開発の進展に伴う新工法等の採用による新たなコスト縮減の可能性を探りながら、事業を進めていく方針である。



地域住民による除草



地域住民による水草の撤去

## 4. 対応方針(原案)

- ◆ 河口部地区では、人と川とのふれあいの場として、地域住民による利活用を促進することを目的として、令和元年度までに護岸や管理用通路等の整備を行い、令和2年度以降はモニタリング調査を実施し、今年度に完了予定である。
- ◆ 巖木川中島地区では、巖木川を中心として地域の活性化を進めていくことを目的として、今後、河道整正や管理用通路等を整備を行う予定である。
- ◆ 河口部地区では、整備箇所の維持管理に対して地域の協力体制が得られており、また、地域住民の散策等に利用されている。
- ◆ 巖木川中島地区では、「巖木川中島地区かわまちづくり協議会」等を通して、整備内容、利活用方策、維持管理の多方面から検討・協議を行うとともに、地域住民による除草などの維持管理や地域住民主催のイベントが実施されている。

このことから、事業の理解と地域の協力体制は整っている。

- ◆ 事業進捗率は、約48%（約5.4億円/約11.4億円）であり、令和16年度には事業完成予定である。
- ◆ 費用対便益 (B/C) については、全体事業では5.8、残事業では9.0となっている。

以上より、引き続き事業を継続することとしたい。